

憧



脊振中学校 3年
小柳 佐優梨 さん

私の好きな漢字

書道授業で、仮屋竹葉先生のご指導を受けながら書きました。
特に気をつけたのは「りっしんべん」です。ただの直線ではなく、美しいカーブを描くよう、何度も練習をしました。私はこれまで先輩方の姿に憧れてきました。でも、3年生になった今は、最上級生として後輩たちから憧れられるような存在になりたい、と思いを込めて書きました。

◆◆◆ 文芸コーナー ◆◆◆

◆俳句（ひしの実句会）

若葉風

追ひ抜くやうに子の走る

香月富士雄

散る桜

八十路下るもせむもなし

牟田口則子

春の雨

食べてゐるか友にメールす

井上 豊美

空港の一直線や麦の青

田原 静子

日毎膨む我が庭の葱坊主

畑石 勝子

瑠璃色の音の渚や春うらら

牟田 鶴美

◆川柳（あおば会）

何気なく

のぞく窓辺の山法師

眞島 永治

ゴキブリに

嫁は武蔵か小次郎か

柳郷 勝吉

知らぬ間に
諭吉を入れるできる妻

島 信秀

大病を自己診断で作り出す

佐藤久仁子

朝日あび新芽輝く茶の畑

眞島 壽子

鯉洗い夏か冬かで盛り上がり

前田 久子

空の上まだ叱られる母の春

馬渡 栄子

年金日店もお客も上機嫌

吉岡 明美

◆短歌（神埼短歌会）

仁比山の

愛逢橋より眺めいる

桜と川の妙なる調べ

田中 と代

明け方に

目覚めてみれば病室に

足痛むわれ日の出待つわれ

羽野 智子

人のうごき【令和8年4月末現在】

- 人口：29,829人
(対前月+57人)
(男性/14,378人 女性/15,451人)
- 世帯数：12,706世帯
(対前月+63世帯)

今月の納期

- 市県民税(1期)
 - 国民健康保険税(1期)
 - 下水道使用料(4～5月分)
- ※使用人員の確認をお願いします

市の広報番組

- 「よかね神埼」
ぶんぶんテレビの14分番組
月・火・木・金・日曜日
12:30～、21:30～
※番組編成により放送時間が変更になる場合があります

神崎のまちで、きらりと輝く活躍をされている方達を紹介しします。

五感で楽しむ脊振の魅力

自然と歴史を次の世代へ



がばいよか脊振 代表
西川 記世 さん

脊振の自然や歴史の素晴らしさを後世に伝えたいという思いで小学校教員を志し、37年にわたって教壇に立ちながら魅力を伝えてきた西川さん。退職後の令和5年、さらに広く発信するため「がばいよか脊振」を設立しました。

長年携わってきたガールスカウトでの経験も生かし、竹を使った炊飯、栄西茶摘みなどの体験活動を実施。「自然の中で心を鍛え、五感で楽しみ、人と分かち合う喜びを体感できるように企画しています」と朗らかに話します。さらに、脊振山で大規模な植林をし「造林の父」と呼ばれた徳川権七や、パリから東京への単独飛行に挑戦した際に脊振山で悲運の墜落を遂げたアンドレ・ジャビーラの歴史伝承にも尽力。読み聞かせや寸劇の披露など、さまざまな形で伝えてきました。

団体設立から4年目を迎えた現在は、同じく脊振を大切に思う団体とも協力。イベント開催については、各団体の持ち味を生かしながら活動の幅を広げています。

夢は、脊振山麓習遊館を魅力発信の拠点と



して毎日開放し、子どもから高齢者まで誰もが気軽に集まれる場所にする。「また来たいと思える場所になりたいです。特に、脊振に住みたいと思ってくれる人が増えたらうれしいですね」と、脊振への深い愛情を胸に、西川さんの活動は続きます。

市長コラム

市民の暮らしを良くするという意識

施策を進める上で、いつも意識していることがあります。それは、市民の暮らしが良くなるために事業（制度）を作ったからといって、直ちに市民の暮らしが良くなるわけではないということです。市民の暮らしが良くなるためには、いくつかが考えられる事業の中から、地域の実情や市民の思いに合った事業を選択しなければ、市民の暮らしは良くなっていかないと考えています。

例えば、2月議会会で予算計上した「市民生活応援券」。単に、物価高対策として実施するのであれば、お金を直接市民の皆さんに配るだけで良かったと思います。しかし、今回はそうはせずに、応援券を作成して市民の皆さんにお届けすることとし、しかも、市内中小企業でのみ使える券も設けることとしました。そこには、市内でお金が動き、地元の中企業が潤い、ひいては、その経済活動により、地域全体が元気になるようにすることが市民の皆さんの思いに寄り添うことになると考えたからです。結果、多くの皆さんから感謝の言葉をいただきました。必ずしも市民の皆さん全員が満足するような施策ではなかったかもしれませんが、今後も、市民の皆さんの声を聞き、市役所内でしっかりと議論を行い、施策を展開していきたいと思っています。

市長交際費の公表

令和8年3月分

項目	件数	支出額(円)
弔慰	1	16,500
御祝	0	0
激励	0	0
会費	0	0
見舞い	0	0
その他	2	10,974
計	3	27,474

先日、出水期前の防災訓練を実施しました。今回から新たに「防災情報集約システム」を導入し、関係する職員が瞬時に貴重な情報を共有することができるようになりました。一見すると、システム内の情報で物事を全て判断できると思ってしまうかもしれませんが、システムはあくまでも災害対応を効率的に行うための一つのツールに過ぎません。大切なのは、現在の市民の状況はどうなのか、現在の市民の声は挙がっていないか、現在の雨の降り方はどうなのかなど、次の判断をするための現場の情報も漏れなく把握できているかということです。そして、その時も大切なのは「市民の声」です。この考え方を、常に職員と共に意識し、災害に備えたいと思います。すべては市民の暮らしを良くするために。



神崎市長
實松 尊徳